

最後に、今年4月より待望の大学院が文教育学部にも設置され、これでお茶大も3学部揃って大学院を持つことになり、新制大学に格下げされて以来、ようやく失地回復が成った。お目出度い次第である。これで入れ物はできたから、これからは中味の充実を計らなければならないものと考え、大方の御支援を乞う。

☆ 松 井 勇

本年でお茶大も満17年になります。私も先が短かくなったせいか、このところ日のたつのが余りに速く、4月の新学期からあっという間に夏休みになりました。

前期は講義の数も多いので、毎日追いかけるような、併しそれだけ充実した日々を送ってきました。どうやら以前に比べて講義が楽しくなってきたようです。昭和24年以来の気候学は本年からは浅海先生の受持ちになりました。長い間不十分な内容で皆さんに迷惑をかけてきましたが、私自身振返ってみますと、地理の基礎勉強ができて非常に有難かったと思います。

☆ 浅 海 重 夫

I, 担当科目：地質学・気候学・土壌学・自然地理学・独書演習・大学院演習。

昨年度と今年度に担当科目の上でかなりの変動があり、今年は上記のようになっている。地質学は赤木先生のあとを継ぎ、教室内の常住の場所も最近第二実験室。ただし地質学は来年度から従来の1年生対象を2年生に改め、層位学的内容を加えるようにするので、今年は休業。気候学は今年度はじめての受持ちで、勉強のやり直しをしながらの講義。独書演習は松井先生がお持ちの頃よりやさしいものしかやらないので、受講学生が1人などということはない。大学院演習では話題のUSDA新土壌分類方式(第7次案)にとりくんでいる。

II, 目下の関心事

- ① 研究について：地形面が土壌の生成環境として一般に具有しかつ表現している総合的性格を追求すること。
- ② 学内のこと：1～2年後に建築を予定されている文教育学部新校舎に、地理学科があてられるスペースと部屋割りについてのプランを練ること。一方大山寮の改築に関連して、いまだに解決点をみいだそうとしない一部の学生と学内の動きに、今日の学生運動の底流がみられる。
- ③ 学会に関して：昨年末に地理学会役員選挙管理委員をやらされてからのくされ縁で、学会の選挙規定の成文化草案委員の1人になり(地理学会にはこれまで役員選挙規約ができていなかった)、関東地区50名、中部地区6名といった評議員の定員数や地区割りの決め方や、また